

【学年・活動名】 年長児 運動会でダンシング玉入れをしよう! ~4年生と年中児との交流~

【経緯】

今年の年長児は、年中の時に年長児のダンシング玉入れを真似して楽しんだ経験から、玉入れを喜んでする姿が見られた。そこで4年生の教員と連携し、幼小中合同運動会で年中児・年長児・4年生と一緒にダンシング玉入れを行うことになった。また、年長児がダンスを考え、4年生が玉入れの方法を考えることで、互恵的な双方向の交流を目指した。

【取組の実際】

① ダンシング玉入れの曲や踊りを考えよう!

4年生とダンシング玉入れをする計画に子供たちは喜び、踊りの曲を相談した結果、「Bling-Bang-Bang-Born」に決まった。次の日、クラスで振り付けについて話し合う場を設けると、年中児でも踊れる動きにしたいという思いが出てきた。A児が年中の頃に踊った「月夜のぼんちやらん」の振り付けを取り入れる案を出し、他の子供たちもそれに賛同。年中児が無理なく踊れるよう、これまでの経験をもとにした簡単な動きを考えて、振り付けを作り上げていった。

踊りが決まると「年中組さんに教えたい」という声上がり、年長児が年中児にダンスを教える場が設けられた。年中児も楽しんで踊り、玉入れ後、年長児は達成感を感じて喜んでいた。



② 4年生さんと玉入れや踊りをやってみよう!

玉入れの練習では、年長児が投げると、最初はうまく入らなかったが、次第にコツをつかんで玉が入るようになった。すると、ペアの4年生さんに「すごいね!いっぱい玉入ってるよ!」と褒められて嬉しそうに微笑み、「また一緒にしたい!」と笑顔で答える姿が見られた。その後、年長児たちが自作の踊りを4年生の前で披露し、「かっこよかったよ」「踊りじょうずだったよ」など、4年生に褒められて嬉しそうな表情を見せていた。



③ 4年生さんみたいに応援団をしてみたい!

運動会前の最後の練習で、4年生が年中児・年長児に応援合戦を見せると、年長児はそのかっこよさに感動し、クラスで真似をし始めた。B児が友達の名前を使って応援を始め、クラス全員が一緒に声をそろえて楽しむようになった。すると「きく組でも応援団をやりたい!」との声上がり、誰を応援するか話し合うと、年長児全員や先生、家族、うさぎのなゆちゃんなど、様々な意見が出た。さらに、「この応援をお家の人にも見せたい」という提案があり、園庭に椅子を並べて披露することになった。園庭で練習をしている時に、興味をもって寄ってきた年少児を優しく迎え入れ、応援合戦をより盛り上げていった。お帰りの際に保護者に披露すると、拍手喝采で喜ばれ、それが自信となり運動会への意欲も高まった。運動会当日、年長児は4年生に応援団を披露したり、4年生と一緒にダンスや玉入れも成功させたりし、達成感を味わっていた。運動会後には4年生に感謝の手紙を書き、喜びを共有した。



【取り組み後の子供たちの姿】

- ・最初は、自分たちの踊りたいような難しい振り付けをしていたが、年下の年中児のことを考え、簡単に踊れる振り付けに変えていった。踊りを年中児に教えた後に、「年中組さんも踊れていてよかったね」と喜び、充実感を味わう姿が見られた。
- ・ペアの4年生さんに自分達で考えた踊りを認められたことが自信となり、その後の運動会の練習や本番で張り切って踊る姿が見られた。
- ・4年生の影響を受けて、きく組オリジナルの応援の言葉を考えて楽しみ、保護者や4年生に見てもらい満足感を味わった。